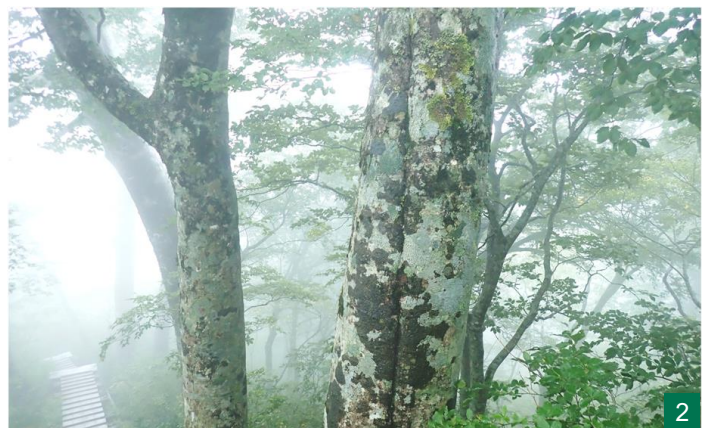


だいせん 大山森林生態系保護地域

中国地方最高峰の大山（1,729m）は独立峰で、その姿は見る方角により印象を変え、伯耆（ほうき）富士と呼ばれる穏やかな山容から厳しい断崖絶壁まで様々な表情を見せてくれます。地質や気候条件からなる特有の生態系が、近世までの厳格な入山制限により保存されてきました。山頂部のキャラボク純林から山腹のブナ天然林までの連続した垂直分布や、崩壊地植生の遷移系列が見られるなど、学術的にも極めて価値の高い保護林です。



景観と植生 〈No.1～5〉

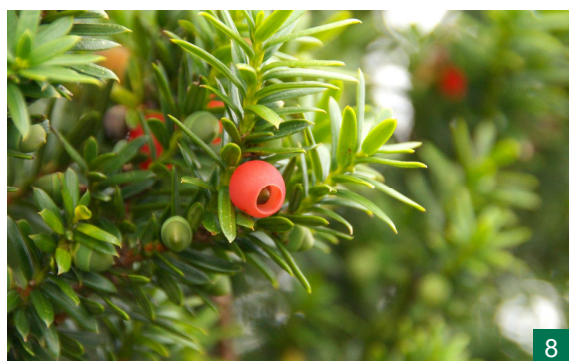
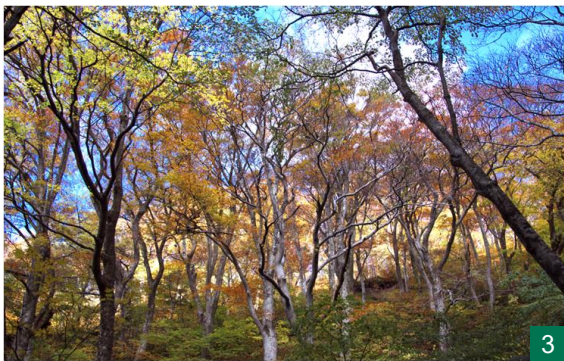
美しき早春の伯耆富士(1)。霧が立ち込む幻想的な夏(2)、紅葉最盛期(3)、厳冬期(4)と変化に富むブナ林。夏になるとナンゴククガイソウやシモツケソウなどが咲き乱れるユートピアのお花畑(5)。

行事 〈No.6〉

夏山開きの前夜に安全祈願のたいまつ行列が行われ、大山寺参道は荘厳な雰囲気包まれる。

植物 〈No.7、8〉

6合目以上の開けた場所に見られるダイセンキスミレ(7)や、8合目付近から頂上にかけて群落をなすダイセンキャラボク(8)など、大山を名前に冠する植物も多い。ダイセンキャラボク群落は、分布の南西限でありながら日本最大規模を誇り、特別天然記念物に指定されている。



ひょうのせん さんのまる
氷ノ山・三の丸生物群集保護林

中国地方第二の高峰・氷ノ山（1,510m）の東斜面に位置する保護林で、兵庫県下最大とされるブナ天然林の多様で豊かな植生に支えられ、イヌワシをはじめとする数多くの野生動物が生息しています。複数の登山コースが整備されていることに加え、西日本では貴重な樹氷の鑑賞スポットとしても知られ、初心者から上級者まで、四季を通じて多くの登山客で賑わいます。



景観と植生 〈No.1、2〉

頂上付近は風衝地となるため、植生はブナ林から矮小化したスギやササ草原に変わり、キャラボクもまばらに見られる(1)。登山道沿いにはブナの巨木が林立し、林床には背の高いチシマザサが生ずる(2)。



保護林と自然公園

保護林は法律での規定はなく、林野庁独自の制度によって設定されますが、自然公園は法律により定められ、指定されます。

近畿中国森林管理局管内には、白山(白山国立公園)や大山(大山隠岐国立公園)など、自然公園と重複する保護林も多数あります。

保護林の看板

保護林の入口付近には、広く一般に保護林の存在や役割を周知するための看板を設置しています。看板には保護林の名称や設定目的などを記していますが、なかには、文面や素材に工夫が凝らされている看板も。

皆さんも一度、山で保護林の看板を探してみてください。



保護林を守る

近年、保護林においてもニホンジカの増加による植生被害が増えています。保護林内には、分布限界の個体群や地域固有の希少植物などが多く含まれるので、地域的な絶滅も心配されています。

そこで、職員だけでなく外部の方の手も借りつつ、防護柵の設置等の対策を行い、保護林の植生を守っています。